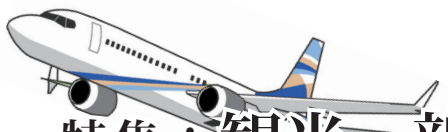
南房総の明日を考えるニュースマガジン

県南思考 Vol.20

特集：観光、新たなアプローチ

わが国を訪れる外国人観光客、いわゆるインバウンドの数は増えつづけ、本年度は5月末で早くも1140万人を突破。最終的には3000万人に迫るだろうと予想されています。観光が主要産業のひとつである南房総としては羽田空港、成田空港からのアクセスをいかし、より多くの外国人観光客を呼び寄せる必要があります。その一方で、土日に集中しがちな国内の日帰り客を、いかに分散させ、滞在型の周遊客に変えていくかも重要なテーマ。そのための手段として、いま南房総をひとつのブロックとしてとらえた、南房総観光圏という考え方が注目されています。



特集：観光、新たなアプローチ

時間に追われた日帰りから
地域をゆっくり周遊していく旅へ。
南房総観光圏の考え方が県南を変えていく。

安房の三名工

睨(にら)む、翔(と)ぶ、身がまえる。

いきいきとした龍の動きを表現した鶴谷八幡宮（館山市八幡）拝殿向拝(ごはい)の「百態の龍」。

彫ったのは初代後藤義光。文化 12 年（1815）、いまの南房総市千倉に生まれ、県南各地の神社やお寺に数多くの作品を残しました。

後藤義光は同時に、祭礼に用いる山車(だし)や神輿(みこし)の装飾を彫りあげたことでも知られています。一昨年の 5 月に行われた生誕 200 年を祝う記念祭では、11 基の神輿と山車が鶴谷八幡宮に集結し、境内(けいだい)を埋めつくすほどの観客を集めました。

その華やかな飾りつけは、ユネスコが無形文化遺産として「山・鉾・屋台行事」を登録したこともあって、ますます評価が高まっています。

一方、南房総市の、やや山あいにある石堂寺。

天台宗の古刹(こさつ)ですが、その庫裡(くり)に、みごとな透かし彫(ほ)りの作品が掲げられています。

▲石堂寺の庫裡に掲げられた波の伊八の作品群

▲水鳥、亀などに波があしらわれ「波の伊八」ワールド全開

▲国の重要文化財に指定されている石堂寺多宝塔。以前はこの周囲に彫刻が取りつけられていた

こちらの作者は俗に波の伊八として知られた人物で、1752 年、鴨川市に生まれました。

波の表現では天下一品として知られ、外房の荒々しく波打つ様子をみごとに彫り出した表現力は、葛飾北斎の代表作「神奈川沖浪裏」にも影響を与えたと言われています。

同時代の石工として知られた武田石翁を加えて安房の三名工。

彼らの作品はごく身近にあって見のがされがちですが、実は新しい和の魅力として観光客をひきつける力を秘めているのです。

▲西光寺（館山市）にある武田石翁の地蔵菩薩半跏像

▶鶴谷八幡宮 / 禰宜(ねぎ)の酒井利文さんから「百態の龍」について説明を受ける両県議

▲7 月に行われた千倉八地区の祭礼。山車を飾る豪華な彫刻が目をひく

◀後藤義光生誕 200 年祭の委員をつとめた（左）庄司武雄さん、加藤守雄さんと、千倉町きずなの國府田秀樹さん（右）

観光は点から面へ

2020 年の東京オリンピックを控え、政府は 4000 万人を目標に外国人観光客の誘致をすすめています。

来日の目的も、これまでのような富士山、京都の寺めぐりといったジャパンツアーから、たとえば食文化だったり、秋葉原のオタク文化だったり、ポイントを絞って日本を楽しむ形へと変化。

国別に見ても、欧米や中韓にとどまらず、インドやベトナムなどの東南アジア、またイスラム圏からも数多く訪れるようになり、量的にも、質的にもこれまでとはかなり様子が違ってきました。

一方、南房総を訪れる日本人観光客の動向を見てみると、トータルの客数こそ変化はないものの、日帰り客や土日に集中する傾向があり、アクアラインの開通によってアクセスが改善されたことが、かえって観光を衰退させることになりかねません。

これまで、南房総は自然の魅力で観光客をひきつけてきました。

そこにあらたな魅力を提示してリピーター客を増やし、観光客の底辺を拡大させる必要があります。

クルマで目的地に直行し、食事をすませたらお土産(みやげ)を買って日帰りする。そんな時間に追われた「点」の観光から、余裕をもって南房総を味わう「面」の観光へ。

こうした背景から生まれてきたのが「南房総観光圏」です。

旅にテーマやストーリー性をもたせ、外国人や時間に余裕のあるシニア世代もターゲットに、南房総全域を周遊していく新しい旅の提案。

そのためには、もういちど地域の魅力を洗い出す作業も必要になります。

従来、あまり注目されてこなかった文化的な観光資源も要素のひとつ。

静かな美術館で展示作品として鑑賞するのと違って、人々の日常生活のなかで接すれば、これらの作品が南房総という風土なくしては生まれなかったことが実感できるはずです。

SNS が観光を変える

「いきなり観光地」という言葉があります。きっかけになったのは君津市の「濃溝(のうみぞ)の滝」。

渓谷に掘られた洞窟(どうくつ)に差しこむ光を撮った、たった 1 枚の写真が爆発的に人

気を呼び、今では週末ともなると、団体のバスツアー客で駐車場があふれるほどの人気スポットとなりました。

木更津の江川海岸も人気スポットのひとつ。海中に林立する電信柱をバックに、とくに夕陽に染まる時間帯は海ほたるを利用して訪れた首都圏の若いカップルがカメラのアングルを競いあっています。

これまで誰も見向きもしなかったスポットが、ある日いきなり脚光を浴びる時代。

そこに大きな役割を果たしているのが、パソコン、スマートフォンなどを活用したSNSです。

なかでも自分で撮影した写真をインターネット上に掲示するツイッターやインスタグラムは若い世代にとって、ごくあたり前の情報共有手段となりました。

いまは携帯電話やスマホで、いつでも、誰でも気軽に写真撮影ができる時代です。

ふと出会った美しい風景、あまり知られていない地域のイベントやおいしいもの、めずしいものを、その場で写真に撮って社会に向けてただちに発信。

▲一気に観光客が押し寄せ人気スポットとなった濃溝の滝（画像提供：君津市フォトバンク）

SNSの登場によって、個人が誰でも発信者になることができ、しかもそこで表示された写真情報は、情報それ自体が独り歩きして拡散し、魅力を広めていきます。

県南各地に残された歴史的な建物など、潜在的な観光資源は眠っています。

身の回りにある新たな魅力を発掘し、興味あるトピックスで人々を呼びこみ、あたらしい観光ルートを誕生させる。

市民ひとりひとりがサポーターとなって、南房総の観光を新たなステージへ引き上げる原動力となる、そんな時代が訪れようとしています。

南房総の歴史的建物

▲江戸時代中期に建てられた旧尾形家住宅。居間と土間を別棟にした建て方に特長がある

▲明治を代表する洋画家・青木繁が代表作「海の幸」を描いた漁師の家が記念館として公開されている（房州布良：現在の館山市富崎）

Pin Point インタビュー

館山市におたずねします。

そもそも南房総観光圏とは何か、なぜ必要なのか、現実にどんな実績をあげているのか。館山市の担当者に詳しくお話をうかがいました。

南房総観光圏の課題などを語り合う（左から）館山市経済観光部の山口南さん、川名茂樹さん、石井博臣さん、木下県議、三沢県議、館山市教育委員会の櫻井保志さん

南房総観光圏という考え方その背景から解説してください

近年の南房総観光をみてみると、アクアラインができて首都圏からのアクセスが改善された結果、日帰り客が増え、逆に宿泊客の数が減ってきました。日帰りと宿泊とでは消費額が3倍ほど違います。館山へ行って帰る、鴨川へ行って帰るではなく、南房総を周遊していただきたい。そのために、地域がタッグを組み、県南エリアとしてひとつにまとまってアピールしていこう。来訪者の滞在時間を延ばし、宿泊客を増やし、結果的に地域経済を潤（うるお）すことが目的です。すでに鋸南町、館山市、南房総市、鴨川市の3市1町でつくった南房総観光連盟や、富津市の関連セクションとも協力しながらプロモーションを行っています。

滞在型旅行のためには新たな魅力の発掘も必要ですね

これまで南房総の観光は、各地の人気スポットを中心に、風景や食、豊かな自然をメインにとらえ、すすめられてきました。しかしながら、その多くは日帰り観光となっています。これからは地域の魅力を掘り起こし、体験プログラムを提供するなど、滞在型の観光を意識した新たな展開が必要になります。すでにいくつかプログラムを進めていますが、これから最も力を入れていこうと考えているのが自転車、いわゆるサイクル・ツーリズムです。南房総は信号も少なく、海沿いの道もあれば、鴨川の方では里山を走り抜けるなど、風景が変化してサイクリストには人気があります。事実、東京湾フェリーの輸送実績によると、自転車を持ち込んだ乗船客の数は、この10年で3倍。9000台をこえています。本格的な長距離レース、短距離コースなど、目的や時間に応じて多彩な楽しみ方ができるのも南房総の特長です。しかも、各地に寺社仏閣や名刹、赤山地下壕に代表される歴史遺産、小谷家住宅などの文化財、その他の特長的で魅力あるスポットがたくさんあります。そうしたスポットを周遊するには自転車が最適で、長距離を一気に走り抜けるのも楽しいのですが、スポットをめぐりながらのツーリングも提案していきたいと考えています。

観光の底辺拡大のための当面の課題を教えてください

なにぶん、サイクル・ツーリズムは始まったばかりですので、課題は山積しています。道路環境の整備も必要で、自転車が安全に走行できるよう道標となるブルーラインを引いたり、側溝（そっこう）などを改善する必要もあります。休憩や着替えをしたり、自転車を組み立てる拠点の整備も必要でしょう。ほとんどのサイクリストがスマホを携帯されているので、インターネットを使ったモデルコースの案内や、宿泊施設など、ツーリストに対する情報の整備と提供も急がなければなりません。ただ、このように改善すべき課題は見えています。サイクル・ツーリズムをきっかけに、3市1町の協力が進み、実際に来訪者も、宿泊者数も増えてきています。こうした実績をベースに、次のテーマに向かって取り組んでいきたいと考えています。

南房総観光人気スポット　ベスト5

（平成27年　千葉県観光企画課調）

順位	施設名	地域	集客数
1	鴨川シーワールド	鴨川市	90万人
2	露地花摘み（白浜、千倉、和田）	南房総市	78万人
3	道楽園	南房総市	74万人
4	道の駅　枇杷倶楽部	南房総市	60万人
5	道の駅　富楽里とみやま	南房総市	54万人

特集：観光、新たなアプローチ

結びの対論

三沢県議×木下県議

新しい観光資源を発掘し、
滞在型の旅を提案していく。それには、
市の枠を超えた対応が不可欠ですね。

木下　今日、鶴谷八幡宮の向拝（ごはい）に彫られた後藤義光の作品をしみじみと鑑賞しました。実に、みごとなものですね。

三沢　おととしの生誕 200 年祭のときは、境内に多くの神輿（みこし）や山車（だし）が集まって壮観でした。

木下　私たちにとっては、お寺や神社にかかげられた作品より、なんといってもお祭りのときのお神輿や山車の方に愛着がありますからね。それにしても、あの日も境内にあふれるほどの人が集まって大変なにぎわいだったそうですね。

三沢　皆さん、しきりに神輿や山車に彫られた彫刻をカメラにおさめていた。わたしたちからすれば、めずらしくもないような気もしますが、外から来た方々には新鮮でひきつける魅力があるんでしょうね。

木下　そこに広域観光、南房総観光圏を考えるヒントがあるような気がします。南房総には、まだまだ潜在的な魅力がたくさんあるはずなんです。

三沢　実際、今日見てきた以外にも、国の登録文化財、美術品、彫刻が各地にたくさん残されています。伝統的な行事も多い。

木下　そうした情報を SNS で発信していけば、たちまち全国レベルで知名度が上がっていく。いま各地で人気を集めているパワースポットなども、ほとんどがそうした方法での情報伝達でしょう。そういえば、先日、テレビのニュースで横須賀の猿島を紹介していました。海軍の施設が戦争遺跡として人気を集めている。

三沢　館山の赤山地下壕（ちかごう）も、最近になって観光客が増えてきました。猿島とはまた違った設備が残っていますし、もっとアピールすれば人気のスポットになるでしょうね。

木下　今後、南房総の新たな魅力、文化的な作品の数々やサイクルツーリズムを発信していくためにも、情報の一本化、観光客を受け入れる窓口の一本化は不可欠なはずです。

三沢　いまは３市１町の、それぞれに観光協会があって、季節のキャンペーンひとつとっても独立して動いているケースが多い。カタログなども、それぞれに作っている。

木下　各地区の観光協会の上に立って、横断的にプロモーションを実行していける組織の確立が必要でしょう。

三沢　その範囲も３市１町を核として、木更津の下の方から、ぐるっと南半分を回って、場合によったら夷隅（いすみ）の方まで大きく構える必要があるかもしれません。

木下　我々が金沢や富山方面へ旅行するときは「北陸」という大きなエリアでとらえて旅行している。県境や市境など意識したことはありません。それと同じで、こちらも「安房」という、大きなスケールで考える時代に来ていると思うんです。ましてや外国人旅行客に、地域ごとの違いなどわかるわけはありませんから。

三沢　今はどの観光地も外国人旅行客、いわゆるインバウンドを招致しようと必死になっている。その視点で南房総を見ると、残念ながら遅れていると言わざるを得ません。

木下　京都や箱根などは外国語表示はあたりまえ。それも複数の表示が標準的で、残念ながら南房総はそこまで至っていない。宿泊施設に英語を話せるスタッフが必ずそろっているかというと、なかなかそうもいかない。冬は暖かいし、ゴルフ場もクローズすることがないし、外国人に対しても南房総は潜在的な需要はあるはずなんですが。

三沢　館山には渚の駅という、観光にとって重要な施設があります。もちろん、まだまだ計画の途中なんですが、いずれ、マリーナが用意されたり、もっと大きな大型客船が入れるよう整備計画が進むと、観光がガラッと変わる可能性があります。

木下　クルマ、バス、JR と、さまざまな交通手段で観光客は南房総を訪れていますが、そこに、海路という大きな交通手段がうまれるわけですね。

三沢　現に、大島との観光船や、紀伊半島へのクルーズ船が発着し、これから千葉、竹芝桟橋との定期的な連絡船でも就航（しゅうこう）すれば、今までとは別の観光客を迎えることができるようになるでしょう。

木下　そうして上陸した方々を、今度はバスに誘導して陸路で南房総を周遊してもらう。そんなツアーも、ゆとり世代にはアピールするでしょうね。

三沢　木更津などと違って館山は港の入り口に障害となるものがありませんから、外国からの大型観光船を迎えることもできます。従来の観光資源に新たな要素を加えることで、外国人にも魅力のあるツアーが実現する可能性は十分にあります。

木下　いま県会議員の活動として、県に働きかけて観光トイレの整備を推進しています。具体的には各地の観光地にあるトイレを整備して、気持ちよく使っていただくよう県に要請して改善が進んでいます。

三沢　それと並行して、あるいは次のステップとして、各国からの外国人旅行者用に外国語表記のガイドを設置するなど具体的な作業に取り組む必要がありますね。

木下　新たな観光素材の掘り起こし、滞在型への提言、インバウンド対策、合理的なプロモーションの推進、こうしたすべてが最終的には、観光の底辺拡大につながっていくに違いなく、南房総観光圏の目的は、まさにそこにあるはずなんですよ。

木下 敬二（きした けいじ）

南房総市・安房郡選出
昭和 23 年 5 月 17 日生まれ
事務所 /〒295-0005
南房総市千倉町牧田 164-1
TEL：0470-44-4111
FAX：0470-44-4112
http://kishitakeiji.com/
e-mail：info@kishitakeiji.com

県南思考 Vol.20

発　　行：2017 年 8 月19日
制　　作：「県南思考」制作委員会
編　　集：式守編集工房
デザイン：TMS

南の風を県政に。南房総選出の県議による「県南思考」は市民の皆さまとともに、県南のあるべき姿を追い求めていきます。本誌をお読みになった感想、ご要望、その他ご意見は各県議の事務所までお気軽にお寄せください。

三沢　智（みさわさとし）

館山市選出
昭和 29 年 11 月 14 日生まれ
事務所 /〒294-0037
館山市長須賀 470-1
TEL：0470-22-3051
FAX：0470-22-3052
http:// 三沢さとし .com/
e-mail：office@misawa-satoshi.com